

## 平成23年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度の予定	
1. 教育に関する事項 (1) 優秀な入学者確保  ①入学志願者増加に繋がる効果的な広報を実施するための全学的体制を構築する。	●地域の中学校校長会等との連携 ○地域の中学校校長会等において高専の説明を依頼するなど、地域の中学校校長会等との連携を深める。	教務主事 専攻科長	★10月31日の運営顧問会議に広島県中学校教育研究会理科部会会長の代理として、呉市横路中学校校長に参加していただき、本校の説明を行い、提言を求めた。	Ⅲ	有	
	●入学説明会、体験入学、オープンキャンパス等の実施 ○米子高専、広島商船高専と合同で高専説明会を計画・実施する。	教務主事 専攻科長	★6月26日に福山市で3高専合同で「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催し、800名を超える参加者があった。 ★8月7日に第1回学校見学会を開催して昨年度より1.4倍増の575名の参加者があり、11月5日に第2回学校見学会を開催して昨年度より1.6倍増の244名の参加者があった。 ★10月～11月に入試説明会(5会場)を開催して昨年度より1.6倍増の328名の参加者があった。 ★6月19日に呉市レンガ通り、9月17日に東広島市ショッピングモールにおいて「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。	Ⅳ	有	
	●女子学生の志願者確保 ○女子中学生や保護者に対して、女性技術者や女性研究者のロールモデルを提示できるようホームページや学校見学会などでの情報発信を強化する。	教務主事 専攻科長	★8月7日の第1回、11月5日の第2回学校見学会において女子中学生を対象とする「女子中学生なんでも相談室」を開催した。 ★高専女子百科を編集・発行した。	Ⅲ	有	
	●効果的なPR活動 ○中学校訪問時に当該中学校の卒業生を同行するなど、効果的なPRとなるよう活動内容を見直し実施する。また、呉高専紹介DVDの配布を積極的に行う。	教務主事 専攻科長	★中学校で開催される進路説明会に当該中学校の卒業生を派遣した。 ★学校紹介DVDを中学校訪問時に持参・配布した。 ★10月～11月の入試説明会(5会場)や第2回学校見学会で、DVDを放映した。	Ⅲ	有	
	●中学生及び保護者を対象としたパンフレットの作成・配布 ○中学生とその保護者に、中学の早い時期から進路の有利性などの高専をアピールできる内容のパンフレット等を作成し、他高専と連携して幅広く配布するよう検討する。	教務主事 専攻科長	★学校紹介のパンフレットを2種類作成し、概略版は広島県の中学3年生全員に、詳細版は中学校のクラス単位で配布した。 ★10月～11月の入試説明会(5会場)や第2回学校見学会でパンフレットを配布した。	Ⅲ	有	
	●入学志願者増加対策 ○入学者選抜委員会で中学校訪問時に聞き取った中学校側の意見等を分析し、入学志願者増加対策を多方面にわたって組織的に検討する。	教務主事 専攻科長	★学生寮の説明など中学生と保護者が提供を希望する情報を学校説明資料に掲載して中学校に配布するなど、広報内容の見直しを行った。 ★6月19日に呉市レンガ通り、9月17日に東広島市ショッピングモールにおいて「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。 ★推薦入試の志願者数は198名で、昨年度より1.4倍増であった。	Ⅲ	有	
	②他教育機関等と連携して高専教育及び理工系分野の魅力を社会に発信する。	●理工系分野の魅力の発信 ○広島テクノショップランチを活用する高専連携事業などを利用して、理工系分野の魅力を幅広く紹介する。	教務主事 専攻科長	★9月4日と9月14日に広島経済大学立町キャンパス内の広島テクノショップランチにおいてキャリア開発キャンプを開催し、ビジネスプランやボランティアプランを発表した。 ★広島文化学園大学や広島商船高専と共同で地域学「呉・芸南学」を開講した。 ★女子中高生理系進路選択支援事業において奈良高専などと協働して「高専女子百科」を編集した。	Ⅲ	有
	③編入学生受入れ方針を再検討する。	●受験資格の見直し ○平成22年度に受験資格を高校卒業が認定できる者に拡大したので、この制度で引き続き実施する。	教務主事 専攻科長	★9月14日に編入試験を実施した。工業高校以外からの受験者はいなかった。	Ⅲ	無

## 平成23年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度の予定
④新たな入学者選抜方法を検討する。	●高専教育にふさわしい人材の確保に向けた入試方法の改善 ○推薦入学における合格枠の拡大や試験内容の見直しを行う。	教務主事 専攻科長	★入学試験の成績と入学後の成績および進路先等の追跡調査を行い、推薦入試による合格枠の拡大について検討を開始した。	Ⅲ	有
	●入学者の学力水準や入学志願者の維持 ○他高専と連携した広報活動や、呉市及び福山市での高専紹介イベントなどにより入学志願者の維持及び増加を図り、これにより学力水準の維持・向上に努める。	教務主事 専攻科長	★6月26日に福山市で米子高専・広島商船と3高専合同で「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。6月19日に呉市、9月17日に東広島市において「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催した。 ★9月12日の学生指導教職員研究会において「入学志願者対策について」をテーマとして討議した。 ★推薦入試の志願者数は198名で、昨年度より1.4倍増であった。	Ⅲ	有
(2)教育課程の編成等 ①中教審答申の趣旨及び高専機構の中期計画に呼応し、本科と専攻科の新たな教育課程の編成等を検討する。	●地域や学生のニーズに応じた学科編成、学科の大括り化、コース制の導入 ○短期的学科再編の見送りを踏まえた上で、学科の大括り化、コース制及び混合学級の導入、更に地域・産業界のニーズを視野に入れた長期的な学科再編について、継続して検討する。	将来計画 WG 座長	★学科の大括り化、コース制及び混合学級の導入等について検討した結果、転科枠の拡大を実施することが決定した。本件については、入学者選抜委員会で実施に向けて検討することになった。 ★長期的な学科再編については、本科4・5年および専攻科1・2年に機械・電気アドバンスコース、環境・建築アドバンスコース、グローバルコースの副プログラムを設置することを検討した。 ★本校のJABEE認定4プログラムを、将来的に複合工学系プログラムとして統一化することを検討した。「JABEE認定制度と2012年度基準改定」講演会に参加し、1プログラムに移行するための必要事項について明確化した。 ★本将来計画WGで提案された案は、将来計画推進部会において実施に向けた検討を行った。	Ⅲ	有
	●地域や産業界のニーズに応じたカリキュラムの改訂 ○地域や産業界のニーズに応じた教育内容となるように、学校全体のカリキュラムの改訂を行い、平成24年度から新しいカリキュラムを実施できるように準備を行う。	教務主事 専攻科長	★平成23年度から持続発展教育(ESD)とキャリア教育を全科目で展開し、教育目的をシラバスに明記して意識付けを行った。 ★本科において全学科共通で実施する初期導入科目「技術者入門」の導入や科目の再編成を行い、平成24年度から実施するカリキュラム案を決定した。 ★専攻科においては科目の統合、廃止と新設を行い、平成24年度の教育課程表を決定した。	Ⅲ	有
	●学習到達度試験の継続実施 ○学習到達度試験を実施するとともに、TOEICを活用して基礎学力の定着度を検証する。	教務主事 専攻科長	★12月6日に英語統一試験を実施した。 ★1月12日に数学と物理の学習到達度試験を実施した。	Ⅲ	有
	●卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価の実施 ○他高専の評価方法などを参考に、卒業生を含めて授業評価アンケートを実施する。	教務主事 専攻科長	★定期試験後に学生授業評価アンケートを実施した。 ★評価結果をできるだけ早くフィードバックできるように、アンケートの内容および実施方法の見直しを行った。 ★卒業生アンケートの実施内容を検討した。	Ⅲ	有

## 平成23年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度の予定
②「ものづくり」, 教養教育及びPBLを重視した教育実施方法の改善策を検討し, 順次, 実施する。	<p>●学生の意欲向上や高等専門学校へのイメージの向上に資する全国的な競技会やコンテストへの参加</p> <p>○全国的な競技会やコンテストへの参加を積極的に奨励するとともに, 教員の負担のより均等化を図る。</p>	教務主事 専攻科長	★ロボットコンテスト, プログラミングコンテスト, デザインコンテスト, プレゼンテーションコンテストに参加し, デザインコンテスト全国大会では3部門で入賞を果たし, プレゼンテーションコンテストでは地区大会で優勝し全国大会に出場した。	Ⅲ	有
③持続発展教育の観点を踏まえた新授業科目の導入や既存科目のシラバスの改善を行う。	<p>●ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動等の実施</p> <p>○キャリア開発セミナー等を通じてボランティア活動の意義を説明し, イベントへの参加を積極的に呼び掛ける。</p>	教務主事 専攻科長	★平成23年度から持続発展教育(ESD)を全科目で展開し, 教育目的をシラバスに明記して意識付けを行った。 ★キャリア開発セミナーを開講して, ボランティアプランコンテストやビジネスプランコンテストを2月2日に開催した。 ★10月12日にアガデミア行事として「クリーンアップざ阿賀」の一斉清掃に1年生全員が参加した。	Ⅲ	有
④外部資金による教育関連特別プロジェクトの成果を継承し, 発展させる。	<p>●原子力人材育成, 国際性向上各プロジェクトの実施</p> <p>○昨年度実施成果に基づき, 各プロジェクトとも状況を見ながら継続的に発展させる。</p>	副校長 (総務企画)	★原子力人材育成PJに関して, 東日本大震災での東電福島第1発電所の被害・事故の現状, 原子力関連技術を取り巻く状況を考慮し, プロジェクトは中断した。なお, 専攻科の授業「放射線と物質」, 「エネルギー工学」の一部として取り上げ, 講義した。 ★国際性向上に関して, ロシアトムスクエ科大より学生2名を招き, 8月から9月にかけての2週間で特別プログラム研究を実施した。	Ⅱ	無
(3) 優秀な教員の確保	●多様な背景を持つ教員の確保	教務主事 専攻科長	★数学, 英語, 機械工学, および電気情報工学分野の教員の公募を行った。	Ⅲ	有
①教員人事において, 教育力と人間力及び教育・社会貢献を支える研究力を評価するとともに, 高専機構の定めた学位取得者比率基準に合致する状況を維持する。	<p>○公募などにより多様な背景を持つ教員を採用する。</p> <p>●専門科目(理系の一般科目を含む)で博士修得者や職業上の高度の資格を持つ者及び一般科目で修士修得者や高度な実務能力や教育能力を有する者の採用</p> <p>○一般科目担当教員については, 必ずしも博士の学位を応募の資格条件とはせず, 修士以上を資格条件として教育面を重視した採用を行う。</p>	教務主事 専攻科長	★英語の教員採用にあつての応募条件は修士以上として, 教育面を重視した選考を行い, 教育歴が豊富な教員の採用を決定した。	Ⅲ	有
②女性教員, 外国人教員を積極的に採用する。	<p>●女性教員の比率向上, 支援策及び働きやすい職場環境の整備</p> <p>○公募による選考の際, 同程度の能力であれば女性を優先的に採用するよう努める。また, 公募の資格条件にその旨を表記する。</p>	教務主事 専攻科長	★女性教員の少ない分野での公募の資格条件に, 同程度の能力であれば女性を優先的に採用することを明示するようにした。	Ⅲ	有
③高専・技科大間の教員交流制度等を活用し, 他機関勤務経験を通じた教員の能力向上策を推進する。	<p>●教員の力量, 学校全体の教育力を向上させるため, 高等学校, 大学, 企業等との人事交流の促進</p> <p>○高専・両技科大間教員交流制度により, 徳山高専へ1名の教員を派遣する。</p>	教務主事 専攻科長	★平成23年度の高専・両技科大間教員交流制度により, 徳山高専へ1名の教員を派遣した。 ★平成24年度の高専・両技科大間教員交流制度により, 東京高専へ1名の教員を派遣することが決定した。	Ⅲ	有

## 平成23年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度の予定
	<p>●国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加</p> <p>○教育教員研究集会、留学生・国際交流担当教員研究集会、国際工学教育研究集会など各種の研究・研修・国際学会へ多くの教員が計画的に参加できるように工夫する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>★12月15日・16日に中国地区教員研究集会を企画実施し、18名の教員が参加した。</p> <p>★平成23年度中国地区高専専門学科教員英語能力強化研修に建築分野教員が参加した。</p> <p>★これ以外に、教員研修会(クラス運営・生活指導)、留学生・国際交流担当教員研究集会、国際工学教育研究集会など各種の研究・研修・国際学会へ多くの教員が参加した。</p>	Ⅲ	有
④教育活動や生活指導などに関する教員表彰を行う。	<p>●教育活動や生活指導などに関する教員表彰</p> <p>○教員顕彰に係る学生アンケート、教員の自己評価、教員の相互評価などの結果に基づいて3名の教員を校長表彰し、内2名を国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦する。</p>	教務主事 専攻科長	★8月に「よい先生」に関する学生アンケートを実施した。	Ⅲ	有
		自己点検 小委員会	★教員環境に関する上位5位までの教員を、校長表彰候補者として推薦した。	Ⅲ	有
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ①教務主事・教育主任による明確な責任体制のもとで、教育改善PDCAを着実に実施する。	<p>●資格取得の推進</p> <p>○資格取得を奨励するとともに、必要に応じて資格教育に詳しい非常勤講師等を雇用する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>★資格取得による単位認定制度を設け、資格取得を勧めるとともに、資格試験に出題される内容を授業の課題として課すなどして資格取得が容易になるように配慮した。</p> <p>★資格取得に繋がる授業(不動産概論など)を開講するとともに、資格取得に詳しい非常勤講師を雇用した。</p>	Ⅲ	有
		<p>●サマースクールや国内留学等の学生の交流活動</p> <p>○平成21年度に包括連携協定を結んだ広島大学へのインターンシップを含め、学生の交流活動に関する情報を積極的に提供する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>★インターンシップとして、広島大学へ本科から1名、専攻科から3名の学生が行き、交流を図った。</p> <p>★本科から、豊橋技術科学大学と電気通信大学へそれぞれ1名が校外実習として参加した。</p> <p>★専攻科から、広島市立大学へ2名がインターンシップとして参加した。</p>	Ⅲ
	<p>●理工系大学と教員研修、教育課程の改善、高等専門学校卒業生の継続教育等の連携</p> <p>○高エネルギー加速器研究機構及び広島大学大学院工学研究科と連携して、専攻科で先端工学に関する授業を開講する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>★高エネルギー加速器研究機構及び広島大学大学院工学研究科からの出前授業として、専攻科で先端工学Ⅰを開講した。</p> <p>★早稲田大学大学院との覚書協定に基づいて専攻科から大学院への進学希望学生を推薦した。</p>	Ⅲ	有
		<p>●教員の能力向上を目的とした研修の実施</p> <p>○定期的にFD活動を実施するとともに、教職員間で十分な意見交換が行えるような機会を設ける。</p>	教務主事 専攻科長	<p>★年間のFD活動計画を立案し、前期4回、後期6回の研修を行った。</p> <p>★本校の将来計画に沿って教員研修の基本方針を検討した。</p>	Ⅲ
②教員の研修経費を確保し、計画的にFDを実施する。	<p>●一般科目や生活指導などに関する研修</p> <p>○教員全員と担当職員が複数のテーマによる分科会方式で参加する教職員研究会を夏期休業期間中に実施する。</p>	教務主事 専攻科長	★9月12日に教員全員と担当職員が複数のテーマによる分科会方式で参加する教職員研究会を開催した。	Ⅲ	有
		<p>●公開授業への相互参加</p> <p>○近隣高校との公開授業による相互教育研修を行う。</p>	教務主事 専攻科長	★10月26日～11月1日に実施する公開授業の案内を近隣高校へ出すとともに、呉市立、広島市立、広島県立の各種学校で実施される公開授業に参加した。	Ⅲ
③中・高校教員との相互教育研修を実施する。					

## 平成23年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度の予定
④教育センターにおけるICTを活用した新たな形態の教育を実施する。	●高等専門学校の特性を活かした教材や教育方法の開発	教務主事 専攻科長	★PBL型授業の体験をするとともに、授業の問題点を洗い出すために、教員が参加した模擬授業を実施した。 ★eラーニング推進室を中心に、eラーニング教材の作成を全学的に進めるとともに、研修会を実施した。 ★前期中間試験後から低学年の基礎学力向上のための補習授業(寺子屋)を実施した。	Ⅲ	有
	○問題解決型教育(PBL)の導入を技術者教育に活かすため、PBLの考え方や実施方法などに関するFD活動を実施する。また、基礎学力向上のための補習授業(寺子屋)を実施する。				
	●企業と連携した教育コンテンツの開発	協働研究 センター長	★(株)アドウィンとの「ものづくり人材育成事業」を通して開発された教材の他高専への普及の可能性を調査しているところであるが、現時点で他高専から要望が上がっていない。 次年度は、本教材の広報方法を検討したい。	Ⅱ	有
	○(株)アドウィンと連携し、シーケンス制御科目に関する教材開発を継続する。また、必要に応じて他高専への教材普及の可能性を調査する。				
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム	●産学官の連携による効果的なインターンシップの実施	教務主事 専攻科長	★8～9月の夏期休業期間中に、本科166名中119名、専攻科1年生全員25名と2年生1名がインターンシップを履修した。	Ⅲ	有
⑤協働研究センターの支援のもとで、COOPの実施を推進する。	○本科生の学外実習や専攻科生のインターンシップを積極的に奨励する。				
	●地域と連携した卒業研究の実施	協働研究 センター長	★地域からの卒業研究テーマの応募が7件あり、内6件を選定し実施した。 なお、6件のうち2件が3年を超えるため、協働研究として実施した。	Ⅲ	有
	○地域に対して卒業研究を公募し、地域とともに学生教育を支援する。また、3年を超える卒業研究テーマの応募に関しては、共同研究に発展するよう当該企業及び教員に依頼する。				
	●知財教育の推進	協働研究 センター長	★3月7日にFDの一環として知財セミナーを実施する予定である。	Ⅲ	有
	○学生及び地域企業技術者を対象にした知的財産権セミナーを実施する。具体的には「知的財産総合基礎」、「意匠」、「パテントマップを活用した特許戦略」等を計画する。				
⑥退職技術者等を特命教員や教育協力員として採用し、多様な経験を持つ人材を教育に活用することにより教育内容を拡充する。	●企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材の活用	教務主事 専攻科長	★9名の企業人材と1名の退職技術者を非常勤講師として雇用するとともに、3名の企業人材と5名の退職技術者を技術アドバイザー(特命教授)として雇用し、より実際に即した技術者教育を行った。	Ⅲ	有
	○企業人材や退職技術者を非常勤講師や特命教授(技術アドバイザー)として雇用することにより効果的な技術者教育を行う。				
⑦副校長(総務企画)のもとで、JABEE認定への取組みを推進する。	●JABEE認定プログラムの更新・拡充	副校長 (総務企画)	★11月24日・25日に、電気情報工学プログラムに関して中間審査を受けた。 次年度以降は、JABEEの4プログラムの統一に向けて準備していく。	Ⅲ	有
	○電気情報工学プログラムに関して中間審査を受ける。				

## 平成23年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度の予定
(5)学生支援・生活支援等 ①課外活動支援策及び学生生活環境改善策を検討・実施する	●図書館の充実や計画的な整備 ○図書館を教育センターの基盤部門と位置付けて整備計画を作成する。	教 育 センター長	★平成24年度から教育センター内に再雇用教員室を設置することなど、総務委員会施設計画部会と連携して整備計画を検討した。 ★古い図書を更新計画を検討した。	Ⅲ	有
	●寄宿舎(学生寮)の充実や計画的な整備 ○女子学生の志願者確保に向けて、女子寄宿舎の整備を推進する。	寮務主事	★H23年12月に改修完了、H24年1月より女子留学生入居。	Ⅲ	無
②低学年次生を重点として、規律ある行動習慣を身に付けさせる取組みを強化する。	●学生指導の取組み強化 ○「身なり指導の日」「挨拶運動」などを通して、学生に相応しい生活習慣を身に付けさせる。	学生主事	★前期中に「身なり指導の日」を1回、「挨拶運動」を1週間実施した。 ★後期にも「身なり指導の日」を2回、「挨拶運動」を2回実施した。	Ⅲ	有
③入学から卒業まで一貫したキャリア支援教育体制を導入する。	●学生の進路選択を支援する事業の実施と体制の整備 ○学生の進路選択を支援するため、一連の企画を実施するとともに、学生の学習・活動を記録するキャリアプロフィールシステムの導入を図る。	教務主事	★学生の進路選択を支援するため、SAPARの企画を立案・実施した。 ★学生の学習・活動を記録する学生キャリアプロフィールシステムの仕様を決定し、来年度から実施できるように導入した。	Ⅲ	有
④学生相談室機能を強化する。	●メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実とともに、危機管理体制を整備する ○発達障害学生へのケアを充実させる。そのために、特別支援教育コーディネーターの勤務時間数の増加、発達障害学生向けのスペシャルサポートルームの整備をはかる。 ○カウンセラー講話、学生及び教職員対象の講演を実施する。特に予防的観点から、学生の状態を調査し、状態にあわせたテーマを設定する。	学生相談室長	★特別支援コーディネーターの相談、および、特別支援が必要な学生に対するケアについては体制が整った。スペシャルサポートルームはハードウェアは整ったが、運用については細かな課題が残った。この点について、次年度検討要。	Ⅱ	有
	○緊急時の対応を強化するため、緊急時の学生支援マニュアルを整備する。		★学生対象のカウンセラー講話はすべて終了し、教職員対象の講演はQUテストについての講演をFDの一環として実施した。特にQUについては、次年度の導入教育に役立てることになり、当初の予定以上に広がりを見せた。	Ⅳ	有
			★相談室が実施するサポート体制のマニュアル化は完了。	Ⅲ	無
(6)教育環境の整備及び活用 ①学生のアイデアを取り入れた、心地よい環境配慮型キャンパスの実現を志向する。	●教育環境に関する学生評価アンケート調査の実施 ○学生に対して、平成23年度教育環境に関する学生評価アンケート調査を実施する。	自己点検 小委員会	★2月に平成23年度教育環境に関する学生アンケートを実施した。	Ⅲ	有



## 平成23年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度の予定
②教育改善計画に沿って、教育設備の拡充・整備を行う。	●施設の有効利用、整備・拡充のマネジメントの実施	施設部会長	★施設、実験・実習設備等の老朽化等の状況を調査・確認し、メンテナンスを実施した。また、教育環境に関する学生評価アンケート調査等も踏まえ、施設管理に係るコストを勘案した将来計画及びマスタープランを策定しつつある。 さらに、それに基づいた改善整備を推進しつつある。	Ⅲ	有
	○施設、実験・実習設備等の老朽化等の状況を調査・確認し、メンテナンスを実施するとともに、教育環境に関する学生評価アンケート調査等も踏まえ、施設管理に係るコストを勘案した将来計画及びマスタープランを策定し、それに基づいた改善整備を推進する。				
	●安全で快適な教育環境及び環境に配慮した施設の拡充を実施	施設部会長	★施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえて整備を推進した。また、施設・設備の省エネ化対策方針を策定しながら、一部を整備した。 ★本年度内に、排水施設の全面改修を完成すると共に、校内歩道・道路を改修整備したことは、特記事項としてあげられる。	Ⅳ	有
	○施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえて整備を推進する。 また、改正省エネ法等の趣旨を踏まえ、施設・設備の省エネ化対策方針を策定する。				
	●学生を対象とする安全管理講習会	学生主事補	★H23年度のバイク通学は本科6名、専攻科2名、車通学は専攻科生7名を許可した。 ★H24年2月1日の6時間目3年生合同HRIにおいて、外部講師による交通安全講習会を開催し、自転車に関する最新の法令も含めて指導した。	Ⅲ	有
○昨年度に引き続き、H24年2月1日に外部講師による交通安全講習会を開催し、交通安全に対する学生の意識を高めるように指導する。					
●教職員を対象とする安全管理講習会	安全衛生委員会	★10月5日に安全衛生委員会の主催による「衛生に関する講習会」を実施し、H24年2-3月頃に「AED講習会」を実施する予定である。	Ⅱ	有	
○安全衛生委員会の主催による「衛生に関する講習会」及び「AED講習会」を実施する。					
③図書館棟を「教育センター」として、教育支援機能を充実する。	●教育支援スペースの確保	教育センター長	★教材作成などの活動スペースを教育センター棟(図書館棟)2階に設け、eラーニングの教材作成などの支援を行った。	Ⅲ	有
	○教材作成などの活動スペースを教育センター棟(図書館棟)内に確保し、支援活動を推進する。				
④技術センター協力員等として、退職技術者等の企業人材を活用する。	●企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材の活用	技術センター長	★昨年度に引き続き、企業人材等を講師として、4つのテーマについて、技術職員の研修を実施した。(実習系技術職員対象:30時間、電気情報系系技術職員対象:24時間、環境都市系系技術職員対象:30時間、建築系技術職員対象:30時間)	Ⅲ	有
	○昨年度に引き続き、企業人材を講師として、技術職員の研修を実施していく。				
⑤新センター群及び新形態の教育を実施するため、建物の改修及び室機能の再配置を推進する。	●教育センター・技術センターの機能充実	施設部会長	★教育センターの整備・改修について検討を開始した。 ★整備の一つとして、教育センターに再雇用教員のためのスペースを確保するための整備を始めた。	Ⅱ	有
	○教育センター棟の改修も含めた整備計画を検討する。				
	○技術センターにおける部屋機能の再配置を検討する。		★技術センターの整備について、将来計画に沿った「ものづくり教育」に適した環境整備への検討を開始した。	Ⅱ	有

## 平成23年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度の予定
2. 研究に関する事項 ①副校長（総務企画）のもとで、科学研究費補助金獲得の支援を行うとともに、研究力強化に資する競争的資金公募事業へ計画的に応募する。	●科学研究費補助金等の外部資金獲得に向けたガイダンスの実施	協働研究センター長	★10月の教員会終了後に科研費補助金説明会を実施した。	Ⅲ	有
	○教員会において、科学研究費補助金説明会を実施する。				
	●研究活動の点検	自己点検小委員会	★教員の研究活動内容に係わる自己点検については、4月～5月にかけて実施し、その結果を教育研究基盤校費に反映させた。	Ⅲ	有
○教育研究基盤校費に関する基礎調査を通じて、教員の研究活動内容を自己点検する。	★教員の研究活動業績に関するデータを、4月～5月にかけて調査し、その結果を10月に学内研究報告書巻末に掲載した《電子版：本校HPに掲載》。				
②教員・学生に対する知的財産教育を推進する。	●学内知財教育の推進	協働研究センター長	★3月7日に知財セミナーを実施する。	Ⅲ	有
	○教職員に対して、知的財産権セミナーを実施する。				
	●特許出願の推進	協働研究センター長	★知財担当特命教授とともに、大方のガイドラインを作成した。現在これを精査中で、次年度学内公表予定である。	Ⅲ	有
	○学内における特許出願マニュアルの構築を検討する。				
③研究成果を社会に積極的に発信する。	●全国高専テクノフォーラムや各種新技術説明会等での研究成果の発信	協働研究センター長	★広島ITエキスポ(10月26～28日)、電子情報通信学会マイクロウェブ展(11月30日～12月2日)などの各種展示会に出展し、本校のシーズ広報に努めた。	Ⅳ	有
	○本校シーズ発信に関する広報活動の在り方を検討しつつ、各種シーズ発表会に積極的に参加する。				
	●研究成果を発表する各種機会への出展、「技術マッチングシステム」、産学官連携コーディネーター等を活用した共同研究・受託研究の促進	協働研究センター長	★現在、県内にある数十の機関を訪問中である。	Ⅳ	有
	○地域企業訪問を通して県内企業のニーズを調査し、本校シーズとのマッチングはかる。		★教員から提出されたシーズ内容が少ないため、共通のキーワードごとにまとめることが困難な状況である。		
	○研究分野キーワードに着目し、融合・複合を考慮したシーズ集の検討を開始する。	協働研究センター長	★知財担当特命教授とともに、大方のガイドラインを作成した。現在これを精査中で、次年度学内公表予定である。	Ⅲ	有
●技術移転の推進					
○学内シーズの技術移転を念頭においた、学内における特許出願マニュアルの構築を検討する。					
3. 地域社会との連携、国際交流等に関する事項 ①教員間及び大学・企業技術者との協働を促す。	●協働研究センター等の施設や設備の充実	協働研究センター長	★継続的に外部資金導入を計画した。	Ⅲ	有
	○積極的に外部資金の導入に努める。				



## 平成23年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度の予定	
②公開講座、研究関連講演会及び他団体企画の本校教員担当公開講座等を計画的に推進する。	●公開講座の参加者に対する満足度アンケート調査の実施	協働研究センター長	★今年予定の公開講座などはすべて完了した。 ★全16講座等を開催し、平均で91%と満足度は高かった。	Ⅳ	有	
	○アンケート様式を統一し、同一基準のもとで公開講座満足度アンケートを実施し、結果の精査を行う。					
	●小・中学校に対する理科教育支援の機会増大	協働研究センター長	★今年度、3つの中学校で出前授業を行った。 ★2月11日に小学生向け出前授業を実施した。	Ⅲ	有	
	○公開講座、科学教室及び出前授業を企画・実施する。					
③「アガデミア」等を活用し、地域理科教育連携事業等を行う。	●小・中学校等との地域連携事業の推進	協働研究センター長	★8月22～26日にかけて阿賀中学生3名を受け入れ、職場体験学習を行った。	Ⅲ	有	
	○職場体験や文化行事への支援を実施する。					
④同窓会及び後援会との連携を強化する。	●卒業生の動向把握、ネットワーク構築及び活用	副校長 (総務企画)	★高専祭や、呉高専設立50周年記念事業などの連携を目的として学校側のサポート体制構築の検討を行った。	Ⅲ	有	
	○学校側のサポート体制構築の検討を開始する。					
⑤国際的な教育研究交流を活性化する。	●海外の教育機関との国際交流やインターンシップの推進	国際交流室長	★11月16日～19日に中国大連で視察を行い、海外インターンシップの検討を開始した。	Ⅲ	有	
	○本校独自の海外インターンシップ制度の検討を開始する。					
	○トムスク工科大学の学生2名の受け入れを実施する(派遣なし)。		★学生2名が来校し、予定された研究プログラムを終えて帰国した。			Ⅲ
	○トムスク工科大学等とインターネットを介してロボコン競技を実施する。		★3月に競技を実施予定である。	Ⅲ	有	
⑥留学生受入れ拡大に関する方策を検討し、順次、実施する	●留学生の受入拡大のために必要な環境整備や受入体制の強化等	教務主事	★第3学年編入学試験(外国人対象)学生募集要項に理科の選択科目や英語能力試験の得点に関する要望事項を掲載した。	Ⅲ	無	
	○第3学年編入私費留学生が受験する日本留学試験にける理科の科目や英語能力試験に関する要望事項を整理する。					
	○第5寮を留学生と専攻科生の女子寮となるように改修する。	寮務主事	★12月に改修完了、1月より女子留学生入居。	Ⅲ	無	
	●外国人留学生に対する研修旅行など、我が国の歴史・文化・社会に触れる機会の提供	教務主事	★里親会と連携して、12月11日に四国の金比羅宮と栗林公園へバス旅行を行った。	Ⅲ	有	
	○里親会と連携して我が国の歴史・文化・社会に触れる機会を提供するとともに、教職員の積極的な参加を呼び掛ける。					
	○米国からの交換留学生を聴講生として受け入れる。	国際交流室長	★8月に来日、後期から建築学科1年へ参加し、1年間滞在する。	Ⅲ	有	
○ハワイ大学マウイコミュニティカレッジへ本科生を送り出し、交流する。	★10月第3週に本科生18名が交流授業及びホームステイを行った。		Ⅲ			有
○里親会との連携行事を継続的に推進する。	★6月に国際交流パーティーを実施、10月2日に夏休み報告会を行った。		Ⅲ			有

## 平成23年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度の予定
⑦地域課題解決に資する活動を行う。	●教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果発信を目的とする印刷物、データベース、ホームページなど多様な媒体を用いた広報体制の整備	協働研究センター長	★広島大学のリポジトリを利用して、呉高専研究報告集を発刊することができた。	IV	有
	○広報室及び教育センターと連携して、本校研究活動の広報発信を企画する。				
	●地域技術者育成への貢献	協働研究センター長	★11月30日に試行的に企業技術者向けの出前授業を実施した。また、2月24日にも同様の出前授業を実施した。	IV	有
	○(株)アドウィンと連携し、地域企業技術者のスキル向上を目的とした講義を実施する。また本校教員のリソースを活用した企業へ出前授業実施の可否を検討する。				
4. 管理運営に関する事項	●戦略的かつ計画的な予算配分の執行		★6月に学内公募を行い、審査の結果、4件を採択した。	III	有
①学校内の資源配分を戦略的かつ計画的に行う。	○新たな教育方法の開発又は教育プロジェクトの構築を推進するため、公募による予算配分を実施する。	副校長 (総務企画) 及び 教務主事	★6月に学内公募を行い、審査の結果、3件を採択した。	III	有
	○新分野における研究開発又は学内若しくは他機関連携による研究開発を推進するため、公募による予算配分を実施する。		★前期(7月)、後期(11月)に学内公募を行い、審査の結果、合計14件を採択した。	III	有
	○全校又は分野等を実施単位とする取組について、公募による予算配分を実施する。				
② 管理運営体制及び自己点検・評価体制の改善を図る。	●管理運営体制の改善	教務主事	★教育センター内に基盤部門と総合教育推進部門を設け、学校全体の教育環境の整備を行うとともに、教育センター委員会を開催して情報の共有化を進めた。	III	無
	○教育センター内に基盤部門と総合教育推進部門を設け、学校全体の教育環境の整備を行う。				
	●服務規律の遵守	副校長 (運営) * 人事係	★新任の教員については教務主事より、職員については総務課長より、採用後に説明を行った。	III	有
	○新任教職員向けに服務規律の遵守を図る。				
	●非常勤事務職員の能力・適性を生かした配置及び業務体制の構築	副校長 (運営) * 総務課長	★平成23年4月以降、採用、配置換え及び教育センター部門担当の見直しを実施した。	III	有
	○総務課及び学生課所属の非常勤職員に係る業務内容及び業務体制の見直しを行う。				
	●ガバナンスの強化	副校長 (運営) * 総務課長	★平成23年4月、呉工業高等専門学校危機管理規則を制定し、危機管理体制の整備を図った。また、6月震災初期対応のマニュアル及び基本行動要領等を作成した。	III	有
	○危機管理体制の点検・整備を行う。		★平成23年11月、地震発生時の津波対策について現状の整理を行った。また、呉高専防災マニュアルの改訂に着手した。		
	●情報管理の整備・改善	教育センター長	★9月7日に情報セキュリティ講習会を実施した。	III	有
	○機構の管理システムの導入に合わせ、本校の管理体制を整備する。		★情報セキュリティ教育実施手順や情報セキュリティ対策実施手順の策定を進めた。		

## 平成23年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度の予定
	●自己点検・評価体制の改善	教務主事	★JABEEにおけるPDCAサイクルの見直しを行い、全プログラムで統一した表現に改め、構成員に周知を図った。	Ⅲ	有
	○教育改善PDCAサイクルの実施方法をわかりやすく表現し、構成員に周知を図る。				
	○自己点検・評価に用いる可能性のあるデータの効率的集約方法を引き続き検討する。	副校長 (総務企画)	★JABEEや認証評価に用いる基礎データの所在と継続的集積の仕組みを検討した。次年度以降も継続課題とする。	Ⅲ	有
	③事務職員及び技術職員を対象とした国立大学や高等専門学校等との人事交流を活用し、事務職員及び技術職員の能力向上を図る。	●学校の管理運営に関する研修会等	副校長 (運営) * 人事係	★授業時間との調整ができず参加することができなかった。	Ⅰ
○機構教員研修(管理職研修)へ参加(副校長(総務・企画)、副校長補佐(将来計画等))する。	○機構等の主催する部課長研修会へ参加する。	★人事院中国主催の研修会に事務部長が参加した。		Ⅲ	有
○幹部教職員による意見交換会を開催する。		★幹部教職員(校長、副校長、各主事及び部課長)による、組織統治のための検討の場の一つとして、当面の諸課題に関すること、及び、相互理解等を目的とした意見交換会を開催している。		Ⅲ	有
●事務職員及び技術職員の能力向上を図るための研修会	○機構等の主催する研修会へ参加する。	★高専機構及び人事院中国等が主催する7研修会に、延べ23名が参加した。		Ⅲ	有
	○学校内勉強会を実施する。	副校長 (運営) * 人事係	★今年度、英語の勉強会を16回行った。	Ⅲ	有
	○e-ラーニングやグループ討論などを取り入れた新形式の学内研修について、引き続き検討するとともに、研修方法及び内容の構築を行う。		★平成23年12月及び平成24年1月、副校長(運営担当)による若手職員を対象とした研修会を開催した。 ★研修内容等の構築に着手した。		
	○技術職員対象の各種研修会及び資格取得等講習会に、積極的に参加する。	技 術 センター長	★中国地区高専技術職員研修(8/18～19、広島商船高専、2名)、中国四国地区国立大学法人等技術職員研修(8/24～26、徳島大学、1名)、中国四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会(9/1～2、広島大学、1名)に参加した。 なお、2件の技能講習会(プレス機械作業主任者、木材加工用機械作業主任者)に計3名が受講する予定であったが、授業時間の調整がつかず受講できなかった。	Ⅱ	有
	●事務職員及び技術職員を対象とした国立大学や高等専門学校等との人事交流	副校長 (運営)	★平成23年6月及び7月において協議を実施した。	Ⅲ	有
	○広島大学と事務職員及び技術職員の長期研修交流に関する協議を実施する。				
	○広島大学との人事交流規模の適正化と高専間交流に関する検討を行う。		★平成23年6月及び7月において協議を実施した。また、併せて近隣他高専と事務系職員の人事交流について意見交換を実施した。		

## 平成23年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度の予定			
④初任者及び転入者研修のためのe-教材等を整備し、本校の学校運営方針を踏まえた研修を実施する。	●ネットワークを利用した情報提供	教 育 センター長	★新年度開始時に新任教員オリエンテーションと非常勤講師懇談会を開催し、学校の運営方針や教育研究に必要な情報を説明した。 ★これらの情報をネットワークを介してe-ラーニングできるように検討を進めた。	Ⅱ	有			
	○新任教員や非常勤講師に学校の運営方針や教育研究に必要な情報をネットワークを介して提供できるように整備する。							
5. 業務運営の効率化に関する事項 ①業務の効率化・合理化を推進する。	●事務等の効率化・合理化	副校長 (運営) *総務課長	★振替休日に係る書式見直し、外注印刷に係る経費削減を目的とした複合複写機の導入、学生食堂等委託契約に係る企画入札の実施及び学校行事の見直し(廃止及び縮小)等を実施した。 ★平成23年12月及び平成24年1月、副校長(運営担当)による若手職員を対象とした研修会を開催した。	Ⅲ	有			
	○事務・技術職員を対象とした業務の効率化・合理化に向けた改善を検討し、実施する。							
	○高専機構業務マニュアル(契約・決算等)に沿った業務体制を確立し、効率化を図る。	副校長 (運営) *会計室長	★平成22年度末に行われた高専機構マニュアル改訂に沿った業務の見直しを行なった。	Ⅲ	有			
	○事務部全体において、情報共有を行うことにより、業務重複や無駄な作業をなくすとともに業務分担等の見直しを行なう。		★事務部連絡会(毎月定期)、各室長による連絡会(業務必要毎)を実施するとともに毎週1~2回会計室内での打合せ、庶務室内(会計室長も参加)打合せを実施し、情報共有による業務重複や無駄な作業を縮減した。 ★継続して情報の整理(文書化)を行い、業務改善を更に進めていく。	Ⅲ	有			
②一般管理費の縮減に努めるとともに、随意契約の見直しを行う。	●一般管理費の縮減	副校長 (運営) *会計室長	★不要不急な物品購入や、役務の見直しを行い効率的な予算執行に努めた。 ★また、サイボウズ等を利用して学内周知を図った。 ★今後も継続して伝票の精査を行なうとともに、学内に情報提供及び周知徹底を図っていく。	Ⅲ	有			
	○不要不急な業務(物品購入・役務)の仕分けを行なうとともに、環境に配慮した製品購入及び設備整備を推進する。							
	○必要数量を的確に把握し、無駄な在庫品をなくす。					★封筒・用紙・トナーについて、必要数量を的確に把握し、無駄な在庫品が発生しないようにした。	Ⅲ	有
	○清掃・警備等の役務業務について、安全性を確保しつつ必要性を検討し、教育環境の改善を図る。					★年間契約(H23清掃・警備等)や複写機更新について、必要性を精査し、効率的な契約となるよう仕様を見直した。	Ⅲ	有
○物品の稼働状況等を把握し、再利用可能なものについては、優先的に使用する。			★不要な物品のうち利用希望がないもの及び高額修理費が必要なものについては廃棄等の処分を行なった。 ★また、保守契約の費用対効果を検討し見直しを行った。	Ⅲ	有			

## 平成23年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度の予定
	<p>●<b>随意契約の見直し</b></p> <p>○電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約は行わない。 また、企画競争(総合評価・公募)についても、競争性と透明性をより高める。</p>	副校長 (運営) *会計室長	★電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、平成23年度分契約はすべて競争入札(一般・公募等)で行った。	Ⅲ	有
	<p>●<b>一般競争契約における競争性と透明性の更なる確保</b></p> <p>○参加要件(地域・資格)緩和及び仕様内容を検討し、今まで以上に競争性を増すことによる費用削減を行う。</p>		★参加要件(地域・資格)緩和により、今まで以上に競争性を増すことによる費用削減効果が現れた。今後も継続して競争性を確保していく。	Ⅲ	有
	<p>○入札における質問事項について、すべての参加希望業者に回答を公表する等の措置を講じることにより、透明性を確保する。</p>		★H22.7.1公告以降、入札における質問事項を全参加希望業者に回答を公表する等の措置を講じるようにしている。今後も継続して透明性を確保していく。	Ⅲ	有